

## 日本損害鑑定協会 第13回定時会員総会開催

# 技能認証制度創設検討へ

日本損害鑑定協会は6月13日、東京都千代田区の損保会館で第13回定時会員総会を開催した。総会では、2022年度事業報告、23年度事業計画などを報告した他、議事では22年度の計算書類承認の件が承認された。太田英俊会長(中央損保鑑定代表取締役社長)は「今まで取り組みを進めてきた活動をより充実させるだけでなく、新たな取り組みを積極的に取り入れ、継続的に発展し続けていけるように、これからも努力を続けていきたい」と述べた。総会終了後は、ASC研修ステップI・IIの成績優秀者の鑑定人6人を表彰した。

## より働きやすい業務環境整備も

太田会長は22年度について、織運営体制の強化や各種規定の整備を行った他、ASCをはじめ各種研修の実施や第8回損害鑑定フォーラムを開催するなど充実した取り組みを進めることができたこと振り返った。

特定修理業者が関わる事案が多発、悪質化していることや、大手損保会社がAIを活用した建物損害算出システムを導入することにより、損害鑑定人には今まで以上に高度な技量と対応が求められるとの見方を示した。

23年度については、ASC研修の体系を見直し内容の充実を図るだけでなく、技能認証制度の創設に向けた研究と検討を進める。この他公式ホームページの改訂や50周年記念事業の準備に加え、女性鑑定人活躍推進ワーキンググループや、New Vision検

総会終了後には、ASC研修ステップI・IIの成績優秀者として、ステップIから、東京損保鑑定の天内庸平氏、名鑑の金井由希氏、札幌鑑定の上田奈々佳氏、ステップIIから中央損保鑑定の齋藤大樹氏、内山鑑定事務所の新田時実氏、三和鑑定事務所の松岡大地氏の計6人を表彰した。



太田会長



ASC研修の成績優秀者を表彰

討会の運営など新たな取り組みを進めるとともに、損害鑑定人の業務運営について適切な領域、対応を検証し、より働きやすい業務環境の整備にも一役を担っていただきたいとの考えを示した。総会では報告事項として22年度事業報告の23年度事業計画、23年度収支予算を報告した他、22年度計算書類承認の1議案が審議され、全て承認された。